

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	環境科学						授業形態		講義	
科目コード	278200	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	山口 健一								ICT活 用	
授業概要	21世紀は環境の時代と言われている。本講義（専門基礎・学科必修科目）では、大気・水・土壌・生物などの自然環境を構成する要素と私たち人間とのかかわりを科学的に理解する。自然の構成や働きを理解し、環境汚染の発生するメカニズムやその防止策を学び、住みやすく、美しい都市や田園の維持と創造および持続可能な社会発展に貢献できる知識を養うことを目的とする。									
関連する科目										
授業の進め方 と方法	毎回の授業内容を口頭でレクチャーしながら、要点を板書する。また、重要箇所については、データ等関連する資料を配布して説明する。 受講生は毎回、ノート又はPCで講義内容を整理するとともに、配布資料をファイリングしてすすめる。									
授業計画 【第1回】	01. 環境科学について 環境科学の位置づけと環境の構成要素を学ぶ。									
授業計画 【第2回】	02. 環境と人間のかかわり 環境と生物、とくに人間のかかわりについて学ぶ。									
授業計画 【第3回】	03. 地球環境と大気 地球を取り巻く大気圏の構造と働きを学ぶ。									
授業計画 【第4回】	04. 大気汚染 大気圏で起こる環境汚染について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	05. 大気汚染防止技術 大気汚染の仕組みと防除技術を学ぶ。									
授業計画 【第6回】	06. 地球環境と水 地球に存在する水と水質について学ぶ。									
授業計画 【第7回】	07. 水環境の汚染 水質の汚染状況について学ぶ。									
授業計画 【第8回】	08. 水の利用と保全 水利用の現状と保全の必要性について学ぶ。									
授業計画 【第9回】	09. 土壌と地下構造 土壌の種類・分類と地下の構造を学びます。									
授業計画 【第10回】	10. 土壌汚染の実態 土壌汚染の現状と対策を学ぶ。									

授業計画 【第11回】	1 1. 化学物質 身近な化学物質とその性質について学ぶ。
授業計画 【第12回】	1 2. 化学物質による環境汚染 有害な化学物質による汚染の事例とその対策法を学ぶ。
授業計画 【第13回】	1 3. 廃棄物 国内の廃棄物の現状と分類について学ぶ。
授業計画 【第14回】	1 4. 廃棄物の有効利用 バイオマスの現状と再利用について学びます。
授業計画 【第15回】	1 5. 循環型社会に向けて 持続可能な循環型社会のための施策について学びます。
授業の到達目標	環境を構成する大気、水、土壌、生物など媒体ごとに、人間を取り巻く身近な生活環境問題から地球規模の国際的課題までその仕組みについて体系的に理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	今回の授業項目をアナウンスするので、図書室等を利用して各自で予習を行う。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	授業ノート及び配布資料を参考に、受講生各自で毎回復習する。(1時間程度) なお、不明な箇所については、授業の前後またはオフィスアワー等を利用して担当教員に質問すること。
課題に対する フィードバック	受講生からでた講義内容の質問およびその回答については、授業中にアナウンスして受講生の間で共有する。 1 5回の授業の節目で要点を振り返ることにより、受講生は本授業の目的を絶えず認識する。
評価方法・基準	定期試験(80点)を実施し、課題の提出および受講の態度等(20点)を含めて総合的に評価する。
テキスト	特に定めない。講義内容に関する資料や参考となる図書を都度配布・紹介する。
参考書	授業の進展にそって、関連する参考書や資料等を適宜紹介する。
備考	